

第 34 期第 6 回研究会「越境する韓流文化のハイブリッド性に関する理論的探求」（理論研究部会企画、立教大学社会学部メディア社会学科との共催）終わる

日 時：2014 年 6 月 7 日（土）16:00～18:00

会 場：立教大学池袋キャンパス マキムホール第一・第二会議室

問題提起者：Jin, Dal Yong (Simon Fraser University, Canada、立教大学招聘研究員)

司 会：Jung, Joo-Young J. (国際基督教大学)

参 加 者：14 名

記録執筆者：李 光鎬

本研究会では、韓国の映画、テレビドラマ、K-POP などの文化産業の制作者側が、韓国のローカルな文化にどのようにグローバルな要素を混合させ、様々な文化圏で受け入れられる「ハイブリッドな」商品に仕上げてきたのかについて、具体的な事例分析の紹介を交え、報告がなされた。問題提起者はまず、ハイブリッド化(hybridization)の概念に関する既存の学説を踏まえ、ハイブリッド化を、異なる文化的慣習や規範の単純な混合ではなく、それによって独自性を持った新しい文化的空間を作り出す戦略として捉える。その上で、1990年代から 2007 年までの時期におけるアジア向けのドラマ輸出中心の韓流現象に対して、2007 年以降の、アジアを超えたより広い地域における K-POP 人気に牽引されてきた、いわゆる「Hallyu2.0」がどのように以前の韓流現象と異なるのかについて説明がなされた。そして、多くの K-POP 楽曲に見られるハイブリッド化の戦略およびそれらの楽曲の流通・消費・翻案・拡散におけるソーシャルメディアの重要性が強調された。

報告内容をめぐって、韓流のエスニシティはそれぞれの文化圏でどれほど意識されているのかという問題、制作者主導のハイブリッド化とソーシャルメディア上で自然発生的に生まれる利用者主導のハイブリッド化現象を区別する必要性があるという指摘、ハイブリッド化が行われているとは言っても、結局のところ韓流のアピールポイントは、依然として何らかの韓国的なもの、韓国性にあるのでないかとの意見などが提起され、1 時間を超える活発な議論が行われた。